

青少年の活動交流推進プロジェクト 「親子ゆめひろば」を振りかえって

青少年の交流を推進するプラットフォーム事業として、学生から社会人までが企画に携わり、組み立ててきました本イベントは、2月とは思えないほど暖かな晴天のもと、大盛況のうちに幕を閉じました。

本イベント、親子ゆめひろばのテーマは「あったかい～心も体もぽっかぽか～」。通常なら寒い時期である2月に実施する屋外イベントでありながら、多くの参加者に来場い

ただき、楽しんでいただくために、クラフト、遊び・体験、食、ステージの4つのブースを用意しました。温かい料理や火付け体験など体が温まるものや、クラフトや遊びを通して親子の交流を促進することを狙いとした心が温まるものなど、テーマに沿って趣向を凝らしたブースには多くの家族連れが訪れました。

企画を通して、実行委員はイベント企画の難しさや奥深さ、喜びややりがいを知ることとなりました。当初、実行委員会全体会を月に1回開催し、その合間に各ブース担当グループがリーダーを中心に話し合いを進め、そこで話し合われた内容や課題を次の全体会で分かち合うという進め方を想定していました。しかし、実際には各ブース担当グループの話し合いが円滑に進まず、全体会がほぼ唯一顔を合わせ、話し合いをする場になっていました。

なかなか話し合いが進まず、いっこうにイベントの全体像が見えてこない状態に誰もが不安を抱いていましたが、それを公に口にする者はおらず、その解決策も話し合われない状態が続いていました。役員においてもその状態は同じで、京都府関係の手続きや、実施場所である京都府立木津川運動公園の使用許可、消防や保健所への申請など、事務的な手続きは粛々と進んでいたものの、イベント自体の企画は難航していました。

不安ながらも各自が役割を持ち、果たすことによって、当日を迎えることができました。全てがスムーズであったとは言い難いですが、困難なプロセスがあったからこそ、このプラットフォームやイベント実施から学ぶことは多かったように思います。

京都青少年ゆめネットワーク役員 酒井俊彦
((公財) 青少年野外活動総合センター友愛の丘)

